

組み立て完成し再出港



▲好天の下、組み立て作業に汗を流す浦田自治会の会員ら

この日は、設置場所のグラウンドの草刈りを行った後、保管していた船のパーツを運び出し、設計図で確認しながら一つ一つのパーツをロープで結び、約4時間かけて完成させました。今年度も11月頃まで展示する予定です。

●魚座造船所

「魚座造船所」の組み立てが、6月7日に旧浦田小学校で行われ、浦田自治会（柳山敏幸会長）の会員など約20人が参加して作業に汗を流しました。

魚座造船所は、東京藝術大学教授でアーティストの日比野克彦氏が、昨年開催された国民文化祭の内陸線アート事業の一環で、浦田自治会やボランティアと共同で制作した木造船。雪の重みで壊れないよう、昨年11月に解体し、保管していました。

花が咲いて多くの方が訪れるように



▲苗木を丁寧に植えていく秋田北鷹高校の生徒

この日は、協賛団体の会員や秋田北鷹高校緑地環境科の生徒など約50人が参加。時折小雨が降るあいにくの天気のため、訪れることを願いつつ、ヤマザクラとエゾヤマザクラの苗木をそれぞれ125本ずつ植樹しました。

●四季美湖「桜植樹活動」

森吉山ダム四季美湖「桜植樹活動」が、6月9日に森吉山ダム周辺で行われ、四季美湖周辺の環境整備の推進を図りました。

この事業は、緑化推進ボランティア「グリーン・メイク」（本城谷多加志代表）が、ダム工事で裸地化した土地を再生して地域活性化と着地型観光に結びつけようと、県の「森づくり県民提案事業」の採択を受けて行ったもの。

33回忌の節目に教訓刻む



▲児童を代表してあいさつを述べる6年の土濃塚翔さん

この後、参列者が慰霊碑に献花し、教訓を胸に刻みました。

●合川小学校慰霊祭

昭和58年の日本海中部地震による津波で犠牲となった旧合川南小学校の児童13人の慰霊祭が、5月26日に旧合川南小学校の殉難の碑前で行われ、合川小学校（藤嶋勇人校長）の6年生45人と教職員が参列し、冥福を祈りました。

全員で黙とうをした後、藤嶋校長が「今回は33回忌の節目の年となりました。皆さんの尊い命は、今後も子どもたちが命を大切に生きていく道しるべとなって受け継がれていきます」などと慰霊の言葉を述べました。また、6年の土濃塚翔さんは「かけがえのない命を大切にしたいと思います」と慰霊碑に向かい話しかけました。

イベントで地域を元気に



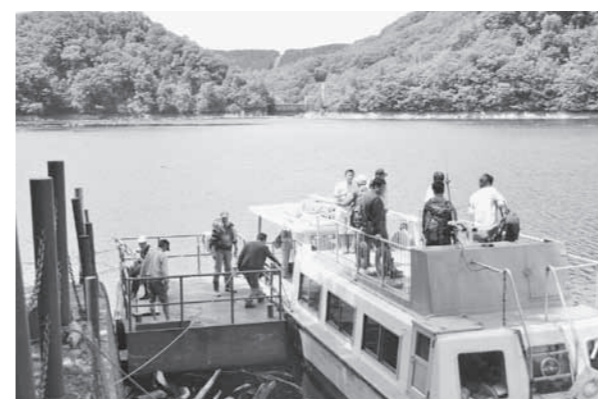
▲揃いの浴衣で、息の合った踊りを披露する婦人会の皆さん

晴天に恵まれたこの日、餅の販売やフリーマーケットなど多くの出店が並び、特設ステージでは太鼓の演奏や踊りなどが披露されました。また、餅の引き伸ばし大会では、約200人の参加者が東西に分かれてそれぞれ1・5升の餅を伸ばしその長さを競いました。

●第31回ふるさと踊りと餅っこまつり

第31回ふるさと踊りと餅っこまつり（和田テニ子実行委員長）が、6月7日に鷹ノ巣駅前・銀座通りを会場に開かれ、盛りだくさんの催し物に大勢の人が訪れてにぎわいました。

秘境小又峡と結ぶ遊覧船が運航



▲湖上遊覧を楽しもうと、第1便に乗り込む観光客ら

このあと、関係者や運航を待ちわびていた観光客が、遊覧船に乗り小又峡船着場へと出航。写真を撮ったりしながら、新緑の木々で囲まれた湖と白雪が残る森吉山の景色を楽しみました。

●太平洋湖水開き

太平洋湖の湖水開きが、6月1日に太平洋湖グリーンハウスで行われ、秘境小又峡とつなぐ遊覧船の運航が始まりました。

ふるさと談議で盛り上がる



▲会場では、久しぶりの再会を喜び合う光景が広がりました

また、会場内にはふるさと納税のPRコーナーが設けられたほか、阿仁から直送された採れたての山菜が販売され、郷土の味を求める会員たちに好評を博していました。

●東京圏あに会総会・懇親会

第29回東京圏あに会（武田国雄会長）の総会・懇親会が、5月31日に東京都台東区の「オーラム」で開かれ、会員や阿仁地区からの参加者など約200人が集まりました。